坂出市報

発行所　坂出市役所
坂出市坂出町番
電話代表3111
編輯人兼発行人　北村正己
印刷人兼出版人　文化印刷部

記録的な大豪雨
坂出市の被害甚大

前例のない六回の連續的氣象特報を發表して新記録を作った赤道氣團の吸り込みで六月八日から十五日まで西日本一帯に降り続いた豪雨は坂出各地にも甚大な被害を與えた高松地方氣象台調べによると八日以來十四日迄の（十四、五日の連続的大豪雨を除く）總雨量だけでも一八八ミリでこの記録は昭和十三年同十六年の梅雨に匹敵する降雨量で大阪氣象台では大正十年來以三十年振りの大雨量と発表している。

坂出市では一朝有事に備えて嚴重なる警戒中、俄然十四日早朝市内西部地區出水の報に接したので時を移さず市役所、消防署、市會の密接な連携のもと一齊に出動した、市報係も九時十五分土砂降りの中を藍下消防司令、片山警備隊長、大四主任等の乗る消防車に便乘して市内各所の被害狀況の視察に赴いた

豪雨禍の最もひどい
此花町方面

西幸町あたりから此花町で除行する人々が屁のところまでまくりあげて行く姿もみられ、宮下通りから西部水田地帯にかけては、恰も泥海の如く水霧におかされ琴参バスが水煙りを立てゝ疾走していた、十五日は午後に至り鎌田池の堤防が危險視されたので水利組合が樋を抜き潮の折柄市松風、梅園町、市役所前繁華街まで一部浸水し一時は非常に危ぶまれた、また宮下界道路が半壊、次から次へ延長危險に際しもしこの道路が決壊すれば土砂流出埋没、カン水盗を含む塩田約五十町歩が全滅の運命におかれるので、塩田業者をはじめ市建設課、警察署、消防署の一体化した懸命措置に當り數百俵の土のうを築き徹夜の防水作業によつてかろうじてこれを喰いとめた

川と化した此花町　十四日寫す

災害復旧土木工事の
その進渉狀況

昨二十五年度におけるジエン、キジヤ兩台風による坂出市内の災害復旧土木工事として政府の事業査定をうけたものは縣及市の施工関係で二五箇所、そのうち災害期を控へて既に竣功したのであります。尙本年度上半期に事業認證となるものゝ内未着手の三ケ所は近く着工の予定であります

縣施工関係

査定番号	所在地	工種	延長米	摘要
三三七	坂出町中堀	護岸復旧	一七九	三月末
二六七	東大濱	堤防復旧	五〇	
三六八	中堀團師	堤防復旧	二八三	竣功

市施工関係

八二	坂出町中新開	堤防復旧	八九・七	一部施工
八五	西大濱同		殘150米	三
二五〇	同		七八・〇	竣功
一五	林田町番屋同		一五〇	
一六	東大濱	護岸復旧	九〇	
三〇〇	御供所	防砂堤	七二	
			三〇	

尙本年度上半期に工事着工の予定箇所

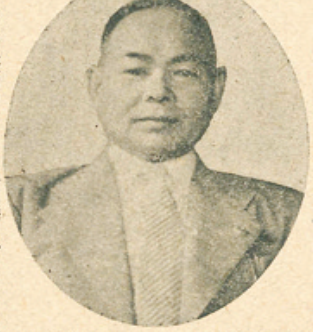
市報100號記念を祝して

一二十年後の人口五十萬
大都市坂出の実現へ

市會議長　末包博通

市報が初めて発行されてから五年一〇〇号を記念して坂出の將來についてのの注文である。

戰前坂出は、坂出を知らぬ人までが坂出と云えば活氣のある非常に明るい、そして發展途上にある今に高松市に迫る町として、香高松市を凌ぐ町として四隣の人から親しまれていた、日く港が良い、中國、四國で名勝にみる良港は爲政者の先賢と共に港灣の問題は常に重要視されている、町の商人も肝が良い、商賣も丸亀、高松より大きいなどと聞かされると何だかわかがこそばゆくなる。



とのように嬉しくて氣持が良かつた、そしてあなたは と問はれて坂出と答えていた当時の町長島田さんは港湾、上水道、臨港鉄道等々の市民から惜しまれつゝ昨年八月終戰となり同十一月末日市民から惜しまれつゝ勲章されることゝ思う二十年後の人口五十萬の大都市坂出の実現へ

場誘致を計り金山、四庄を合併し昭和十七年七月林田を含併して待望の市制を實施した

町制以來實に三十二年の長い間坂出市発展に盡せし功績は久米通賢氏と共に永く銘とす

その職を去る。

昭和二十一年一月に二代目市長として鎌田榮氏が就任、終戰處理、戰後港灣計画、兩景橋の取除き、坂出港振興計画等多忙な活躍中就任十月にして公職追放となつたのは市民の爲遺憾であつた。公選初代市長として市民の輿望を負うて同二十二年春も盛りの四月名門鎌田正光氏就任、若さと熱意にものを云わせて、市立病院建設、臨港鉄道第一期完成、内港浚渫の港頭地帶の整備、塩田埋立、六、三、三、四学制改革実施、工場誘致等々実に多忙であつた。

敗戰國として市の計画も実行途上、予算その他の障害もあり苦闘は想像以上であつた。

財閥の御曹子として世の風波に体驗少なき氏の日夜劇務奮闘はついに健康を害し、二十四年五月半ばで退職されしはお気毒でもあり市民のためにも惜しまれてならない

同二十四年七月公選二代目として現濱田市長を迎えた氏は人も知る強か者、酢いも甘いも世情に通じた苦労人、餘も父働き盛り、智恵盛り、西岸壁完成、電話局落成、豊平土地問題の解決する、これに要する物資も莫大であり、坂出港を利用すること必然である十年後の化学は現在の塩田を如何ように取扱うであろうか？大小の工場は土地を求めて周邊に集る宇多津、坂出、林田などの塩田は綜合した連大なる計畫が必要である。大型汽船（壹万屯以上）の港は林田に求めなければならぬ大型飛行場はとりあえず城山頂上に造り都心部まで十分間位で行ける道路を造る、城山頂上はホテルやゴルフ場その他近代的設備を作るその間宇多津、坂本、飯野、府中、松山王越等合併を進め十五年後の人口は二十万―二十五万の大都市となる。お隣りの丸亀、善通寺その他の地方は豐富低廉なる電力と水である。水は長柄池の完成を見ればこと足りる市の水道も將來の水源地は是非綾川に求めなければならない。

電力は四國電力の電源開發である十年後には水力による電源も大量に發電される予定である四國開發も発足する、これに要する物資も諸施策を手際よく着々と片付けている、市の大計を樹てそれと取相むには適人と考える用意をもつて坂出市今後の發展に對遇されんことを望む、摂て將來の坂出のあり方について少々私見を述べてみたい。

名古屋都市も東京、大阪、名古屋、鹿島、岡山、高松、丸亀等々。坂出、下關、門司、長崎、横濱、神戸等のやうな性格に分けて考えられる、即ち港に生きる都市と背後に平野を持つ都市とである。坂出が港によることは申すまでもなく歴代市長の港灣計畫と工場誘致は以上の意味においても最重要とされている。

工場誘致は豐富低廉なる電力と水である。水は長柄池の完成を見ればこと足りる市の水道も將來の水源地は是非綾川に求めなければならぬ。

二十年後にはこゝに人口五十万、四國第一の大坂出市の實現を見る、丸亀との合併に當り大坂出港の美観と數多大工場の偉觀大盤若の經済力はよく丸亀市を飲むことが出來ると信ずる敗戰より復興へそして隆盛への過程において、いばらの道も急坂も又坦々たる平地もあらうが市民諸君！希望念じます

最後に筆を擱くに當りまして、去る五月二日、改選後の初市議会において同僚諸君の御推挙により議長の職に就いたことは身に余る光榮であり感謝にたえない次第であります、もとより不敏の者でありますが終始一貫公正無和の途を歩み常に市民諸君より絶大なる御支持を得た同僚議員の御協力により五万市民の輿論を尊重し公正にして且つ能率的な議会の運営に微力を尽したいとも念じます

何卒市民諸君の御協力と御鞭撻を切望いたします

（議員は末包議長）

× ×

右　坂出市消防署も出動
附近　十四日寫
上　西幸町附近の出水
十四日寫

一、水稲の冠水による被害狀況

町名	冠水面積	一日以内の冠水面積	一日以内の被害率	二日冠水面積	二日冠水被害率	三日冠水面積	三日冠水被害率	三日以上冠水面積	三日以上冠水被害率	冠水による減收見込量
坂出	一、五五〇反	一八〇反	二〇%	一八〇反	二〇%	三四五反	三〇%	一、一二〇石	五〇%	一、一二〇石
林田	三〇八	五〇二	〇	五〇二	〇	五八	二〇	三〇〇	五八	三〇〇
加茂	三一〇	五〇	一五	一一〇	五	二〇一五〇	二〇	二五〇	三〇	二五〇
計	二、六八	二八〇	二〇	五一三	三〇	三〇一、三七五	一〇	一、六七〇	五〇	一、六七〇

備考　①一日以内の冠水は該当面積多数につき調査外としました
②冠水後の肥培管理につき普及事務所と協力指導中なるも生育の見込なきものが約一町歩あります

二、水稲の流失埋没

町名	流失埋没面積	被害率	減收見込量	埋没原因
坂出町	一〇反	五〇%	一〇石	山及開墾畑の土砂流入のため
林田町	五	五〇	五	
加茂町	二	五〇	二	
計	一七		一七	

三、畑地の冠水並に土壌浸蝕

町名	冠水面積	主なる作物名	被害率	耕土流失面積	内訳 被害大	被害中	備考
坂出町	六五〇反	蕎菜 甘藷	六〇%	三〇〇反	二〇反	二八〇反	
林田町	一九〇	甘藷	五〇	一〇	五	五	
加茂町	一〇	〃	四〇	二〇	一〇	一〇	
計	七六〇			三三〇	三五	二九五	

縣施工関係

三〇四	林田町大番	路側復旧	二七米近く着工

市施工関係

七八	坂出町西大濱	護岸復旧	八二米近く
七九	林田町總社	堤防復旧	一〇〇同
八三	坂出町東大濱	護岸復旧	五一竣工